

「生理の貧困」は決して過去の問題ではないはずなのに!!

市役所の生理用品の無料配布 国の交付金が無くなったら廃止!?

三重県の共産党県議が「突然、生理となって困った。トイレットペーパーみたいに、生理用ナプキンをどこでも置いてほしい」とSNSに投稿したら、殺人予告も含め多数のいやがらせがきました。

貧困で生理用品を買えない

突然の生理で困った体験を多くの女性がしています。また、貧困と格差の広がりの中で、「必要な生理用品が買えない」という人もいます。

数年前、話題となった「生理の貧困」は決して過去の問題ではありません。

市の対応は大問題

国は2022年

「地域女性活躍推進

交付金」で女性活

躍の一環として生

理用品の無料配布

を支援することに

しました。この交

付金などを使い、

市も「ふらっと(男

女平等参画セン

ターMOO3F)」や福祉の窓口などで生

理用品の無料配布をしていました。

てつきり、今も続いていると思っています

たのですが、国の交付金措置が無くなる

と、市はあっさりやめてしまったのです。



無料配布期間はわずか1年半ですが、9500枚を配布、経費は配布用袋を含め680万円、年間450万円ですから交付金が無くてもできます。

道立高校では女性トイレに

生理用品を置いて

いるのに

道立高校では、原則、女子トイレに生理用品を置いていますが、市立北陽高校は、市の統一的な考えでやっていないので置いていないと聞きました。



札幌市は順次、小中学校にも

トイレに生理用品を配置

札幌市は今年度から順次、小中学校の女子トイレに生理用品の配置を始めました。厚岸町、別海町、中標津町、標津町でも小中学校の女子トイレに生理用品が置かれているようです。

私が子どものころはトイレに紙がないのが当たり前。でも今はどこに行ってもトイレットペーパーがあります。

「生理」も人間の生理現象です。トイレットペーパーのように「あって当たり前」にならないのでしょうか。



村上かずしげのホームページをご覧ください

村上かずしげ通信 25年6月8日

発行 日本共産党市議団 23-5212